

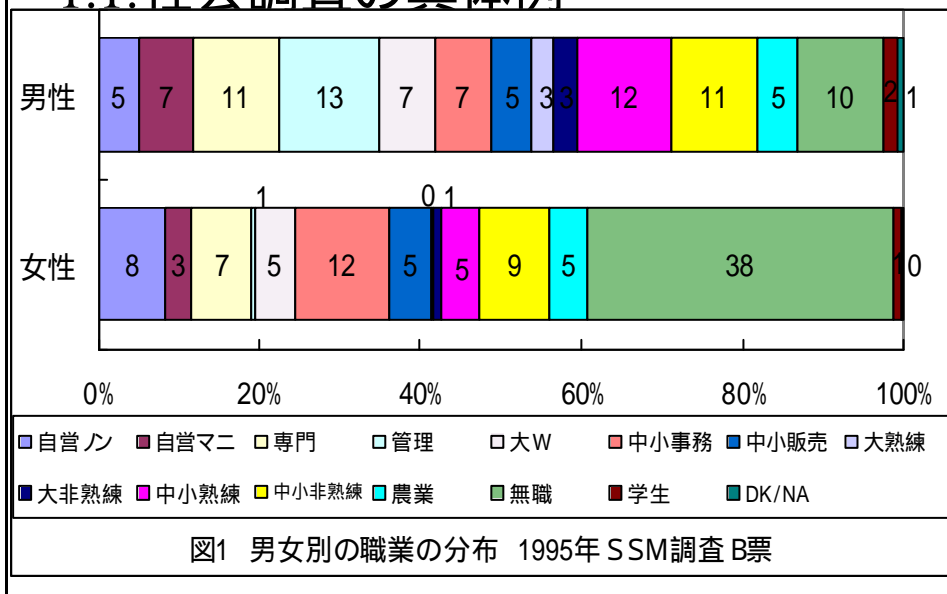
# 統計的社会調査の実施法

村瀬 洋一

- 1 調査の種類と目的
- 2 無作為抽出法
- 3 質問文の作成 (みなさんの案を発表)
- 4 仮説構築と因果関係
- 5 調査票の作成 尺度構成、因子分析

## 1. 調査の種類と目的

### 1.1. 社会調査の具体例



## 現代社会的認識

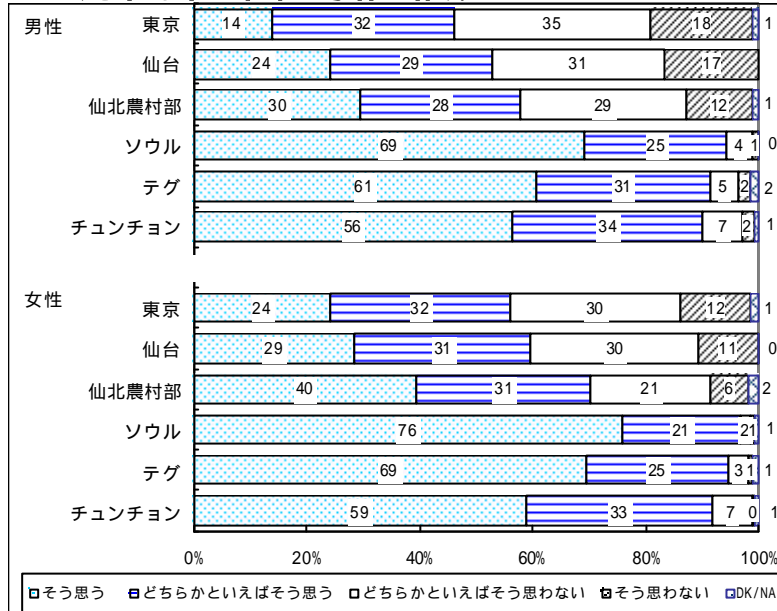


図2 社会の認識 今の社会は貧富の差が大きすぎる

## 年齢と価値観

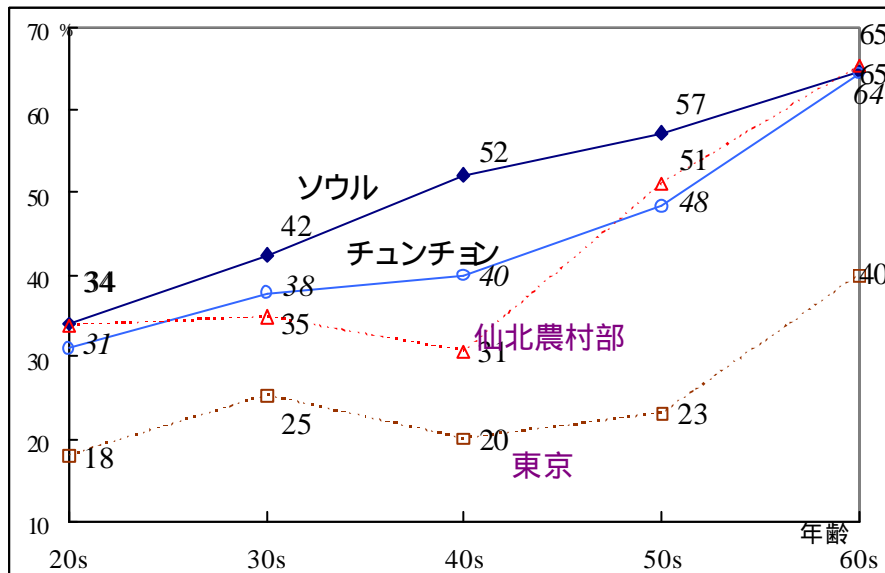


図3 平等志向と年齢の関連 NECO Survey男性

## 1.2.社会調査の種類

- 統計的調査 (全数調査、標本調査)
  - 多数の個体を対象
  - 大規模社会の分析において重要
- 記述的調査 (質的調査)
  - 典型的な少数の事例を対象

## 1.3.統計的調査の種類

### 1)面接調査

本人確認、質問の伝達、正確な回答

50人の調査員を3日間、雇うと約150万円

### 2)留め置き調査 (回収は訪問)

3) 郵送調査

4) 集合調査

5) 電話調査

6) 電子調査 (ネット調査、web調査)

1)の方が良質なデータ、しかし高コスト(金銭、労力)

## 2. 無作為抽出法(ランダム・サンプリング)

### ■ 大学内の調査

簡単、みな同じ人間という前提

### ■ 大学外の調査

適当にとる 偏り

生活に余裕がある人、大学に協力的な人

## 2.1. 良い調査とは

- 母集団を定義可能
- 高回収率
  
- 多水準の問  
表面的意識、価値観、態度、行動  
新住民、転勤族に関する問
  
- 調査メンバーの多様性、よい組織を作る

## 2.2. 社会構造と偏り

- 社会は、大都市の大卒の人だけではない
  - 東京圏 1都 3県の人口 - 全人口の4分の1
  - 大企業勤務 + 公務員 男性 2割、女性 1割のみ
  
- 職業、政治意識、人間関係などが異なる
  
- 職業による社会的役割分業
- 社会階層構造 - 社会的資源の不平等分配

## 社会的資源(social resources)

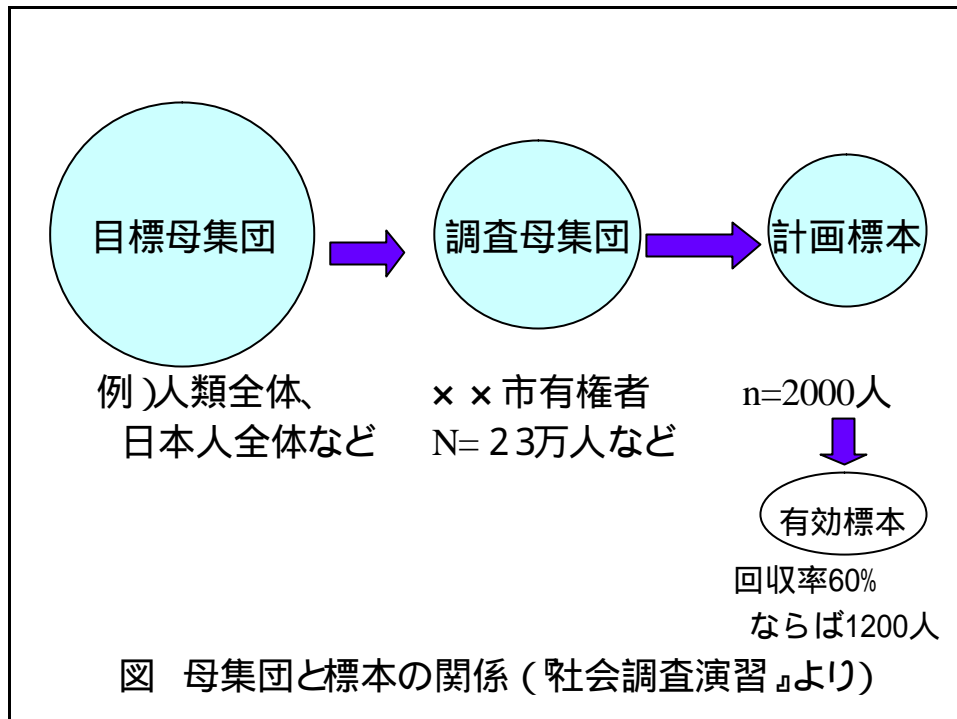
### ■ 人々の欲求対象となる希少なもの

- 物的資源 - 消費財一般 (財産、収入など)
- 人的資源 - 人員、労働力
- 关系的資源 - 人脈、権力、威信
- 文化的資源 - 情報、知識、学歴

誰が調査に答えるか

## 2.3.回収率が低い場合

- 低階層が欠けている
- 年齢、人種は分かりやすいが  
心理要因を含めた適切な補正は不可能



## 2.4.無作為抽出のやり方

- 100万人の都市 1000人抽出  
 間隔1000人で対象者を選ぶ ... ×  
 実際には歩けない
- まず50地点抽出 ... (系統抽出)  
人口により等間隔で - 重要!  
 この場合だと2万人間隔
- 都市内の人口の表が必要
- 各地点は7軒間隔などで20人  
 二段抽出法

### 3.質問文の作り方

#### ワーディングの注意点

- ステレオタイプの単語  
「女性の腰掛け就職」に賛成ですか
- ダブルバーレル  
家族の信頼と尊敬は重要である  
信頼は重要、尊敬は不要と思っている人  
答えられない



■ 曖昧な言葉

- 友達は何人いますか
  - 環境問題に興味がありますか
- 人によって意味が異なる (多義的)

■ その他、別紙 5 p.145

## 4. 仮説の作り方

### 4.1. 仮説とは

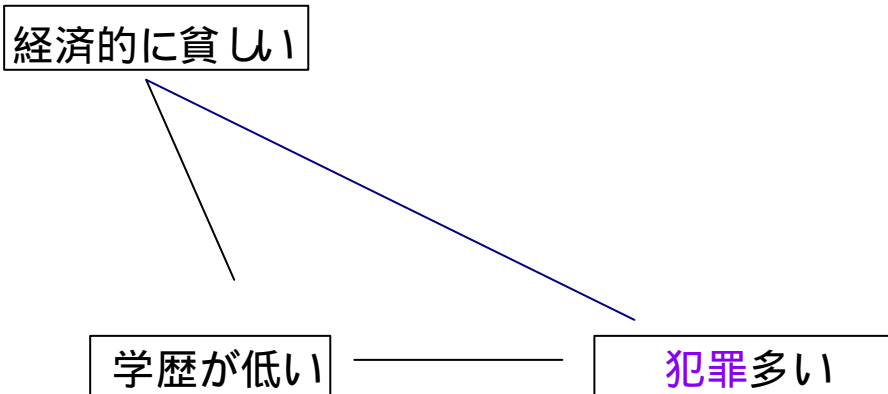
原因と結果の、2つの要素を含む文

- 「環境に興味を持つ人は多い」原因を含んでいない
- 「高年齢ほど、環境に興味を持つ」  
年齢と興味という2つの要素がある

## 4.2.因果関係

- 原因と結果の関係
- データ上で関連していても因果ではない  
例 米作りが多い県 自殺が多い  
因果ではない  
本当の原因は「老人の多さ」

## 4.3疑似相関の例



## 5.調査票の作り方

### 資料 5

- 表紙、初めの挨拶文 - 仙台調査
- 質問の量
- 質問の流れ
  
- 途中の説明文 (あいの手)
  
- 抵抗感の少ないタイトル 固い難しいタイトルは不可

## 5.1.回答選択肢

- 4段階か 5段階か  
中間選択肢 - ない方がよい  
老人や子供 2段階が限界  
7段階以上 回答者が疲れる
- 複数回答(MA)
- 自由回答

## 5.2. 尺度

### ■ 妥当性

- 測りたいこと(概念) - 質問文(尺度)  
一致しているか
- 外的基準(ある概念の基準)がある場合  
例 社会的地位スコア 収入との関連をみる  
多くの場合、外的基準はない

### ■ 信頼性 繰り返しの測定 同一の値

## 5.3. データ分析法の種類

- 単純集計とクロス集計
- 基本統計量
- 多変量解析(3つ以上の変数を用いて分析)
  - 分散分析
  - 重回帰分析  
Yが1つ、Xは複数
  - 因子分析  
XとYを設定しない

- 相関と回帰 別紙 1、2
- 相関はデータの散らばり具合を表す  
0~ 1か - 1
- エクセルの散布図  
数字のみを2つマウスで選択  
複数列選択 Ctrlキーを押しながらマウス

## 5.4.因子分析の考え方

- 目的 - 変数がたくさんあった時、  
背後にある要因 (因子)を発見したい  
例 文科系的能力、理科系的能力
- 実際には - 変数間の関係を、数学的に要約  
しているだけ

数学的要約 - コンピューターがやってくれる  
しかし大切なのは、分析法の考え方を理解